

# 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

## ②施設・事業所情報

名称：	六ッ川台保育園	種別：	認可保育園
代表者氏名：	園長 吉本 治美	定員（利用人数）：	60（57）名
所在地：	232-0066 神奈川県横浜市南区六ッ川3-78-10		
TEL：	045-714-1454	ホームページ：	<a href="http://www.seisyou-kai.jp/mutsukawadai/">http://www.seisyou-kai.jp/mutsukawadai/</a>
【施設・事業所の概要】			
開設年月日	1981年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 晴翔会		
職員数	常勤職員： 10名	非常勤職員：	8名
専門職員	保育士 13名	栄養士	2名
	看護師 0名	調理員	2名
	用務員 0名		
施設・設備の概要	居室数： 乳児室、2歳児保育室、幼児オープンスペース3室、ランチルーム、ホール、こども図書館、事務室、調理室、休憩室、園庭	設備等：	床暖房、冷暖房、駐車スペース

## ③理念・基本方針

《保育理念》  
子どもの最善の利益を考慮し、一人一人の子どもの長所や個性を引き出し、助長していけるよう、保育者の専門性を発揮し、質の高い保育を行っていきます。また、子どもの育ちを保護者と共有し、安心して子育てを行えるよう支えていきます。

《保育目標》  
「丈夫な身体と豊かな心」

《保育方針》  
子ども達が主体的に生活する中で、遊びを中心とした保育活動、興味や感動、疑問や挑戦意欲を刺激するような柔軟な環境づくりを重視していきます。オープンスペースの場で年齢にとらわれず、変化のある豊かな体験を重ね、子どもの自由な発想、好奇心を育てていきます。

④施設・事業所の特徴的な取組

園は、京急線「弘明寺駅」から徒歩で5分の「弘明寺口」より、バスで6分ほどの住宅街にあります。

園舎は、平屋建てのワンフロアで、保育室の扉が無いオープンスペースの造りとなっています。開放的な雰囲気の中で、子どもたちは、日常的に異年齢でのかかわりを持ち、年上の子どもが年下の子どもに思いやりの気持ちを持って接し、年下の子どもは年上の子どもに憧れの気持ちを抱きながら、互いに成長し合っています。

全クラスで複数担任制を導入し、子ども一人ひとりの個性を大切にした保育を実践し、職員全体ですべての子どもを見守る体制を作っています。

広々とした園庭には、桜の木や梅の木、花壇の花々などがあり、子どもたちは、四季折々の自然を感じながら、追いかっこや運動遊び、桜の木の下でのままごと遊びなど、思い切り身体を動かして遊んだり、好きな遊びに夢中になって楽しんだりしています。

「こども図書館」は、ゆったりとした家庭的な雰囲気の絵本の部屋で、3500冊を超える絵本を常備して、貸し出しも行っていきます。

外部の専門講師による、体育活動（3～5歳児）、英語活動（4、5歳児）を行っており、マット運動や跳び箱などで健康増進を図り、歌やゲームなどで楽しみながら英語に親しむなどとしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月16日（契約日）～ 2022年12月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2017 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆子どもがありのままの自分を表現できるよう、保育を実践しています

園では、オープンスペースの特長を生かして、異年齢で過ごす時間を多く持ち、子どもが思いやりやあこがれの気持ちをはぐくみながら互いに育ち合えるよう援助しています。四季折々の自然を十分に感じることができ、広々とした園庭では、思い切り身体を動かして好きな遊びを楽しめるようにしています。室内の活動も、園庭での活動も、職員が全体を把握しながら連携を取りやすい環境があり、子どもたちが安心して園生活を送られるよう、全職員ですべての子どもを見守る体制を構築しています。職員は、子どもたちが伸び伸びとさまざまな経験を積み重ねながら、ありのままの自分を表現し、自由な発想で遊びを展開できるよう保育を実践しています。

◆保護者と職員が子どもの育ちをともに見守る関係性を大切にしています

園では、登降園時の会話や連絡帳を通じて子どもの様子を保護者と共有しているほか、全クラスで、日々の活動の様子を写真とコメントで紹介するドキュメンテーションを掲示して子どもの様子を伝えています。また、入園から卒園までの成長の記録として、一人ひとりに「乳幼児期の育ちを保護者と共有するための経過記録」（育ちのあゆみ）を作成し、四半期ごとに子どもの様子や職員の思いを記載して、保護者にも子育てや子どもの成長に対する思いなどを記載してもらっています。子どもの育ちを園と家庭で共有し、互いに理解し合えるようにして、保護者と職員が子どもの育ちをともに見守り、喜びや感動を分かち合える関係性を大切にしています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回第三者評価を受審し、様々な角度から園の運営、保育の在り方等について改めて振り返る機会となりました。受審にあたっては職員一人一人が自己評価を行ったうえで、職員全体で話しあいや園内研修を重ねました。当園の保育理念や方針、保育目標を軸にした具体的な保育の方法や、子どもへの関わりについて確認することで、全ての子どもと保護者に、より質の高い保育を提供したいという職員の意識が更に強くなったように感じます。全職員が子ども達に、保育士としての確かな専門性と、優しく温かな心もちで向き合い、また保護者の皆様と共に手を携えて子ども達の育ちを支えていけるよう、今後も力を尽くしていきたいと思ひます。

保護者の皆様にご協力いただいたアンケートの結果や、自己評価の中での気づき等、課題となる点については、引き続き高い意識をもって、より良い方向を見つけれられるよう取り組んでいきたいと思ひます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり